

ちゅうしんだいらさがんのかい

中信平左岸の会（松本市・安曇野市）

・組織の活動面積	A=	1,059	ha
・組織の構成員数	約	2,260	人

組織形態	農地維持 ■	資源向上(共同) □	資源向上(長寿命化) ■
取組開始年度	平成27年～	—	平成27年～

構成員	農家、非農家(事務局・修理班)
-----	-----------------

組織の概要

本地域は、北アルプスを背に梓川左岸の台地に広がる果樹を中心とした畑地帯で、松本市梓川から安曇野市三郷・堀金に至る1,059haを範囲としています。灌漑施設は、昭和45年よりほ場整備や畑かん事業等で整備されましたが、40年余が経過し施設の老朽化が進みました。年々施設の補修費が嵩み、対応が困難になってきた中、交付金を活用しての畑地帯での取組が可能となり、この地域の畑地帯を中心に組織化し、活動に取組むことになりました。

春先のパイプラインの水張による施設の点検・機能診断から、秋の水抜き時の点検までの活動と、その中で判明した破損個所の補修及び突発的な緊急補修を農地維持で、固定式散水施設(スプリンクラー、アングルバルブ)の計画的更新を長寿命化で対応しています。また田地帯の開水路の補修・更新にも取組みます。

中信平左岸の未来に向けて



1年の始まりは、パイプラインの水張りからバルブの点検・パイプの破管等機能診断を行います。



アングルバルブの点検やスプリンクラーの散水試験を行い、判明した破損個所は農地維持で補修をします。



水抜き作業によるバルブの点検により1年の作業は終了します。その間に判明した修理箇所は引き続き農地維持で補修をします。



水路敷や畦畔の草刈りや、開水路の泥上げも



緊急補修がひと段落すると長寿命化の工事に取り掛かります。まずはスプリンクラーの更新を、止水後はアングルバルブの更新を行います。工事は、農地維持も長寿命化も修理班により、直営施工で行われます。

